

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十三年三月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第 二 十 三 卷 第 四 冊

第 二 百 六 十 五 號

昭 和 十 三 年 四 月 一 日 發 行

宗 教 的 自 覺(承前).....

文 學 士 片 山 正 直

歷 史 と 自 由.....

文 學 士 竹 下 直 之

相 對 性 理 論 を め ぐ る 認 識 論 的 諸 問 題(承前)

文 學 士 近 藤 洋 逸

京 都 帝 國 大 學 文 學 部

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス
ルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年五圓、前後二期ニ分チテ前納スベキ
モノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌

『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士		
天野	白井	上野	植田	小島	木村	九鬼	田邊	西谷	野上	羽溪	服部	久松	本田	山内
貞祐	二尙	照夫	壽藏	祐馬	素衛	周造	元	啓治	俊夫	了諦	英次郎	眞一	義英	得立

前 號 目 次

行爲と倫理……………	文學士 島 芳 夫
主體の哲學と倫理の問題(下)……………	文學士 柳田謙十郎
相對性理論をめぐる認識論的諸問題(承前)……………	文學士 近 藤 洋 逸

會 告

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京部哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京部哲學會へ御通知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京部哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章捺捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介、新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京部帝國大學
 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
 ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊 數	定 價	郵 費	稅
一冊	金四拾五錢	金壹錢	五厘
六冊(前金)	金貳圓七拾錢	不	受
十二冊(前金)	金五圓四拾錢	不	受

廣 告 料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十三年三月廿五日印刷納本
 昭和十三年四月一日發行
 第二百六十五號第二十三卷
 第四册

京都帝國大學文學部内

京都哲學會

服部英次郎

須磨勘兵衛
京都市北小路通新町西入

須磨勘兵衛
京都市北小路通新町西入

印刷所

内外出版印刷株式會社
京都市西洞院通七條南入

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 京都三九三一番
 大阪三九三一番
 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
 内外出版印刷株式會社

賣 捌 所

(東京) 寶文館 東海堂
 (大阪) 北隆館 上田屋
 (神戸) 寶文館 盛文館
 (京都) 大寶文社 川瀨書店 參文社

プラトンの テアイテトス

東京文理大講師

田中美知太郎 譯

菊判 六〇二頁
クロース装 上製函入
定價三八〇送料三三三

新刊

此著作は熱烈な探求そのものであつたプラトンの哲學的精神を最もよく現はし、その論究する内容も極めて豊富である。彼はこの書に於て「何が知識であるか」の問題を中心に、或はヘラクレイトス・プロタゴラス説を批判し、或は虚偽不可能の問題を取扱ひ、或はロゴスの種々の意味を區別しつつ、その間無理數の定義、ソクラテスの産婆術、パルメニデス對ヘラクレイトス、自由人對奴隸人等各種の興味ある題目にその論述を及ぼしてゐる。然も議論は平易なるものから始まつて次第に複雑高尚の問題に至つてゐる爲、この篇が内容上、又制作年代上中期作品と後期作品とを媒介するの地位にあるといふ一事と相俟つて、學者は是をプラトン哲學入門の第一書として推すのが當である。知識を愛し知識を求めるとの必讀すべきこの不朽の古典は譯者が多年研究の結果を收めて、茲に我國教養人の味讀を待つ事となつた。

- 久保 勉 譯 プラトン 饗 ニ・三〇
- 阿部次郎 譯 對話篇 饗 ニ・三〇
- 久保 勉 譯 プラトン 宴 ニ・三〇
- 阿部次郎 譯 對話篇 宴 ニ・三〇
- 菊池慈一郎 譯 プラトン プロタゴラス ニ・三〇
- 後藤孝弟 譯 プラトン ソピステース ニ・三〇
- 菊池慈一郎 譯 プラトン フイレイボス ニ・三〇

（大正五年四月六日）昭和十三年三月廿五日印刷納本（毎月一回）
（第三種郵便物認可）昭和十三年四月一日發行（一日發行）

哲學研究 第二百六十五號 定價金四拾五錢 郵税金壹錢

東京 神橋 田 岩 波 書 店 振替 二六二 〇四